

# 宇部興産株式会社 会社説明会

2019年9月

宇部興産株式会社



**I** 宇部興産の概要

**II** 新中期経営計画

**III** 株主還元の考え方

**I**

**宇部興産の概要**

---





## 会社概要

- ◆社名 宇部興産株式会社
- ◆創業 1897 (明治30) 年 6 月
- ◆設立 1942 (昭和17) 年 3 月
- ◆代表者 泉原 雅人
- ◆本社 (東京) 東京都港区芝浦  
(宇部) 山口県宇部市
- ◆売上高 7,301億円 (2019年3月期)
- ◆営業利益 445億円 (2019年3月期)
- ◆純資産 3,545億円 (2019年3月期)
- ◆連結子会社数 71社 (2019年3月期)
- ◆連結従業員数 11,010人 (2019年3月期)
- ◆上場取引所 東京・福岡 (1949年上場)
- ◆単元株式数 100株





## 創業理念・経営理念・経営方針

**UBE**

創業理念：

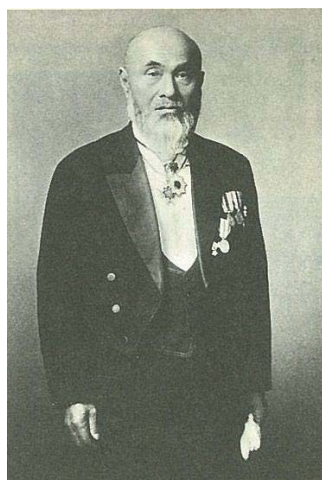
**「共存同栄」「有限の鉱業から無限の工業へ」**

経営理念：

**技術の探求と革新の心で、未来につながる価値を創出し、社会の発展に貢献します**

経営方針

- 1. 「倫理」**                    **高い倫理観を保ち、法令および社会規範を遵守します**
- 2. 「安全と安心」**        **地球環境保全に努め、安全・安心なものづくりを行います**
- 3. 「品質」**                    **お客様と社会の信頼に応える品質をお届けします**
- 4. 「人」**                        **個性と多様性を尊重し、健康で働きやすい職場をつくります**



初代社長 渡辺 祐策

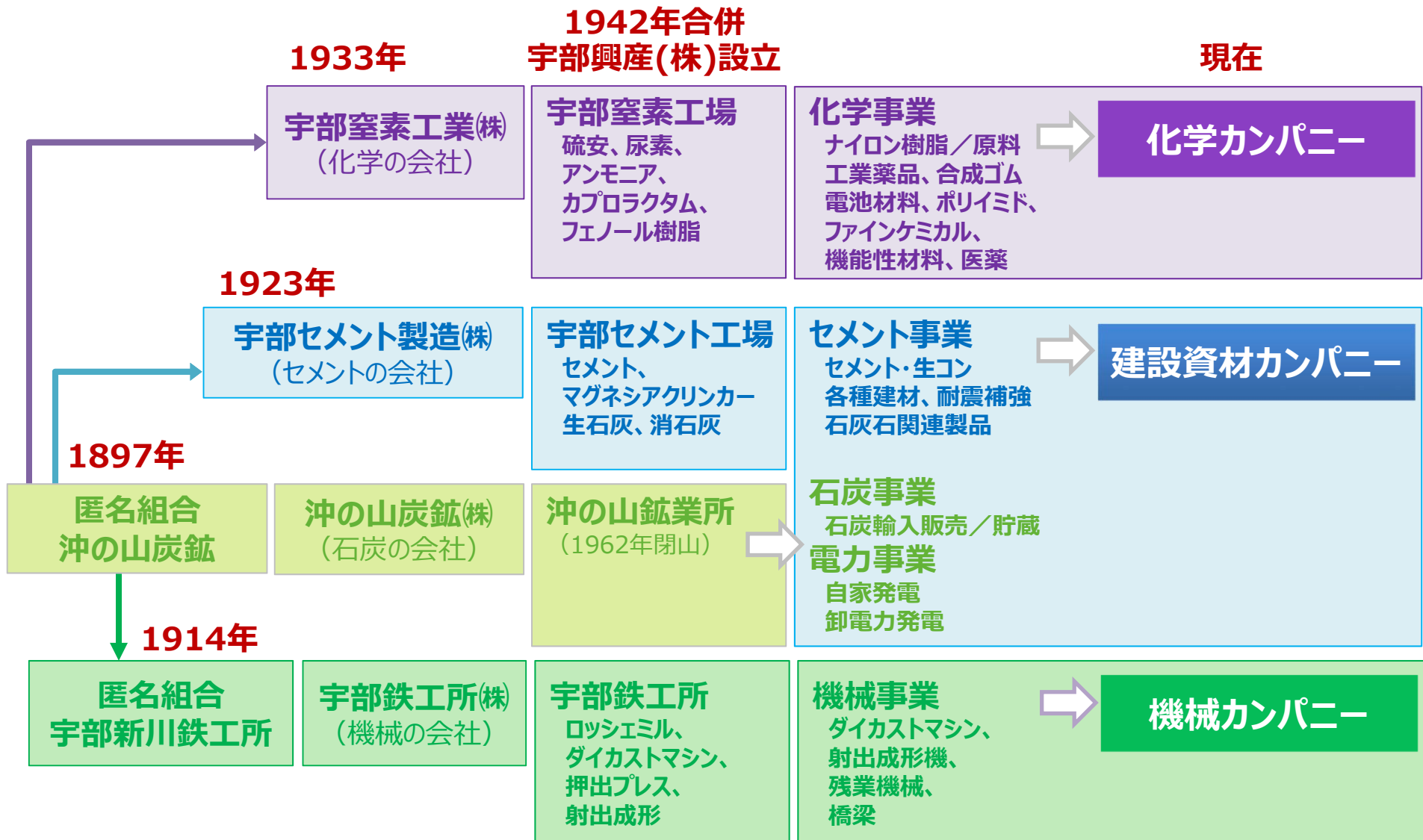
UBEグループは1897年、発祥の地、宇部で始めた石炭採掘事業以来、時代と産業構造の変化に対応し、常に自己変革を行ってきました。

その中で一貫して変わらなかった価値—それが「技術」と「革新」です。

独創的な「技術力」と革新的な「モノづくり力」、そして時代を先取りし、変化を怖れないチャレンジ精神は、現在もUBEグループ共通の価値観として、脈々と受け継がれています。



# 120年の歴史



# ▶ 事業概要（事業別売上高シェアと主要製品）



➤ 2018年度 連結売上高：7,301億円

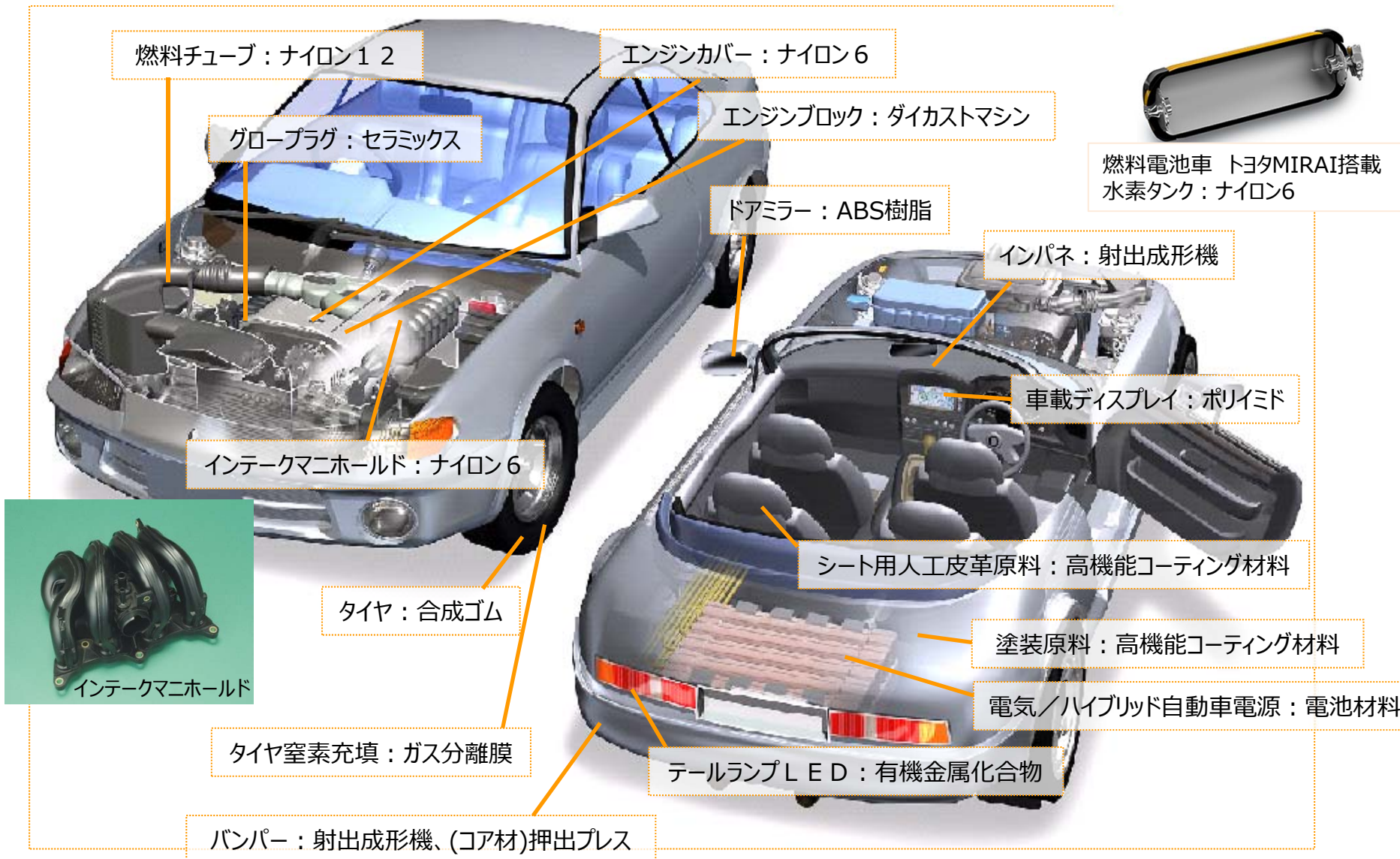
化学	<b>化学</b> 売上シェア42% (3,149億円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>合成ゴム</li> <li>ナイロン樹脂</li> <li>電池材料</li> <li>ポリイミド</li> </ul>
	<b>医薬</b> 売上シェア1% (101億円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>自社医薬（創薬）</li> <li>受託医薬</li> </ul>
建設資材	<b>建設資材</b> 売上シェア33% (2,502億円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>セメント／生コン</li> <li>各種建材</li> <li>カルシア／マグネシア</li> </ul>
	<b>エネルギー・環境</b> 売上シェア10% (758億円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>石炭貯蔵／販売</li> <li>自家発電／売電</li> </ul>
	<b>機械</b> 売上シェア13% (972億円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>成形機（射出成形機／ダイカストマシンなど）</li> <li>産業機械</li> <li>橋梁</li> </ul>

※：2019年度より医薬セグメントは化学セグメントに、エネルギー・環境セグメントは建設資材セグメントに統合されています

※：事業間の内部売上等があるため、シェアを合計しても100%にはなりません



# 身近なUBE製品① -自動車-







▶ 身近なUBE製品③ -生活関連-



サッシ：押出プレス

防水材

バスマット

入浴剤

ゴルフボール、靴底：合成ゴム

保存容器：ポリエチレン

便座、洗面台：ABS樹脂

食品ラップフィルム・パック

電動工具、電動自転車：電池材料

食品パッケージフィルム：ナイロン6

壁材

スポーツ靴：特殊ナイロン

化粧香料：ヘリオフレッシュ®

床材：セルフレベルング材

薬：医薬原体・中間体

合皮ソファ：高機能コーティング材料

カーペット：カプロラクタム

カルブロック®

タリオン®

エフィエント®

エイベリス®



# 全国の事業所



宇部地区主力工場地帯



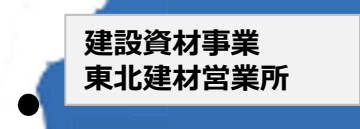
伊佐セメント工場



建材事業  
札幌建材営業所



建設資材事業  
東北建材営業所



堺工場



- 宇部本社
- 基盤技術研究所
- 医薬研究所
- 宇部ケミカル工場
- 宇部藤曲工場
- 宇部セメント工場
- 技術開発研究所
- 沖の山コールセンター

伊佐セメント工場

苅田セメント工場

建設資材事業  
九州建材支店

建設資材事業  
広島建材支店

(株)ニシハリマ宇部

宇部マクセル(株)  
宇部マクセル京都(株)

(株)関西宇部

大阪支店

堺工場  
大阪研究開発センター

名古屋支店

千葉石油化学工場  
先端技術研究所 他

東京本社  
宇部三菱セメント(株)  
宇部興産建材(株) 他

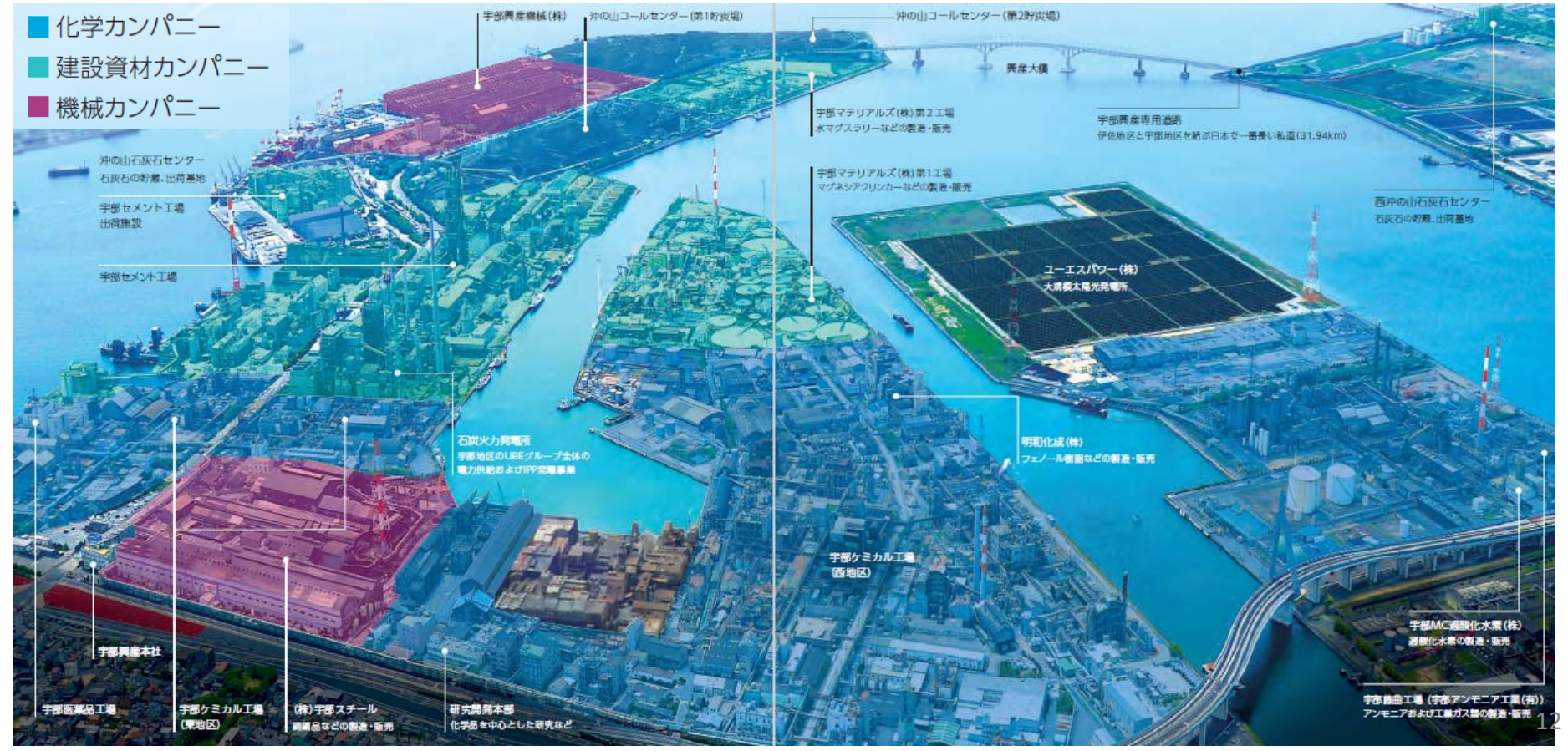
# ▶ 宇部地区工場群のつながり



■ UBEグループは石炭採掘からスタートした事業を、石炭採掘機械の製造、石炭と石灰石を活用したセメント製造、石炭を原料とする化学肥料の製造へと発展させ、その後も社会の要求に応じてさまざまな製品を世に送り出してきました。その結果、山口県の宇部地区に製造施設が集積し、発電所や港なども備えた現在の姿を形成しています

- インフラの共有による生産効率向上、環境負荷の低減
- 自家発電所で発生するスチームとセメント工場からの排熱などを各事業で有効利用
- 原材料供給、廃棄物の利用などで各事業間の連携が容易
- 近隣の豊富な石灰石、水資源や大型船の着岸できる港などにも恵まれた立地

宇部地区敷地面積は約900万㎡  
東京ドーム約192個分





# 全世界の拠点





## 2019年度業績予想

### ■ 化学カンパニーを中心に、全カンパニーとも増収増益を目指す

(単位：億円)

項目	'18年度	'19年度		差異
			1Q	
売上高	7,301	7,600	1,650	299
営業利益	445	470	73	25
経常利益	478	470	77	△8
親会社株主に帰属する当期純利益	324	310	45	△14
有利子負債	1,872	1,900	1,923	28
自己資本	3,295	3,520	3,248	225
自己資本利益率 (ROE)	10.1%	9.1%	-	△1.0%
D/E レシオ	0.57倍	0.54倍	0.59倍	△0.03倍

✓ 2019年度 前提条件 (環境要因)

為替 110円/ドル

ナフサ (CIF) 570ドル/t

豪州炭 (CIF) 125ドル/t

**II**

**新中期経営計画**

---





## 「すべてのステークホルダーに価値を創出し続ける企業」

1. 3カンパニーにより、それぞれ自立した「攻め」と「守り」の体制を構築
2. 経営環境の変化を「課題」と同時に「機会」と捉え成長へ繋げる
  - i) 地球環境問題への対応と貢献
  - ii) グローバル化推進による新たな市場の獲得
  - iii) ガバナンス機能の充実と健全な企業文化の醸成
3. 経営課題及び事業課題達成のための重要施策
  - i) 人的経営資源の充実
  - ii) ICT活用の推進





## 「2025年のありたい姿」達成に向けた、2021年度までの3ヶ年の中期経営計画

### 1. 事業の成長基盤強化

- ① 化学部門を中心とした次なる成長
- ② 海外拠点拡充、グループ会社との連携進化、事業環境変化へのスピーディーな対応
- ③ キャッシュフロー創出、成長投資の実施
- ④ 人材と働き方の多様化を推進
- ⑤ ICT技術活用と関連人材の育成

### 2. 経営基盤（ガバナンス）の強化

- ① 経営の監督機能強化、意思決定の迅速化
- ② 品質問題に対する再発防止策の遂行・改善、品質保証体制の強化
- ③ 内部統制システムの強化

### 3. 資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献

- ① 2021年度目標の達成、2030年を意識した長期目標の設定
- ② サプライチェーン全体での環境負荷低減
- ③ 環境負荷低減に貢献する新たな技術・製品の創出と拡大



## ナイロン樹脂・カプロラクタム

# UBE

- **ナイロン樹脂** — 食品包装フィルムや自動車部材などに用いられる、ガスバリア性と耐熱性に優れたプラスチック。

### 事業環境

- 新興国の生活水準の向上により、食品包装等の用途が成長
- 自動車の電動化や軽量化が進展

### 戦略

- 生産能力の更なる拡大
- 製品・技術の高付加価値化

### 将来像

**UBEが得意とするフィルム向けで  
トップメーカーを目指す**



ナイロン樹脂の用途例：食品包装フィルム、自動車部材

- **カプロラクタム** — ナイロン樹脂の原料

### 事業環境

- 景気後退もあり、足元では需給が緩和

### 戦略

- コストダウンと収益改善
- 複製肥料の付加価値向上

### 将来像

**安定した収益構造を確立**



# 合成ゴム (BR)



## ■ 耐摩耗性に優れた合成ゴム。UBEグループ品は主に自動車タイヤ向け

### 事業環境

- タイヤ需要及び合成ゴム需要は年平均3%程度で安定成長

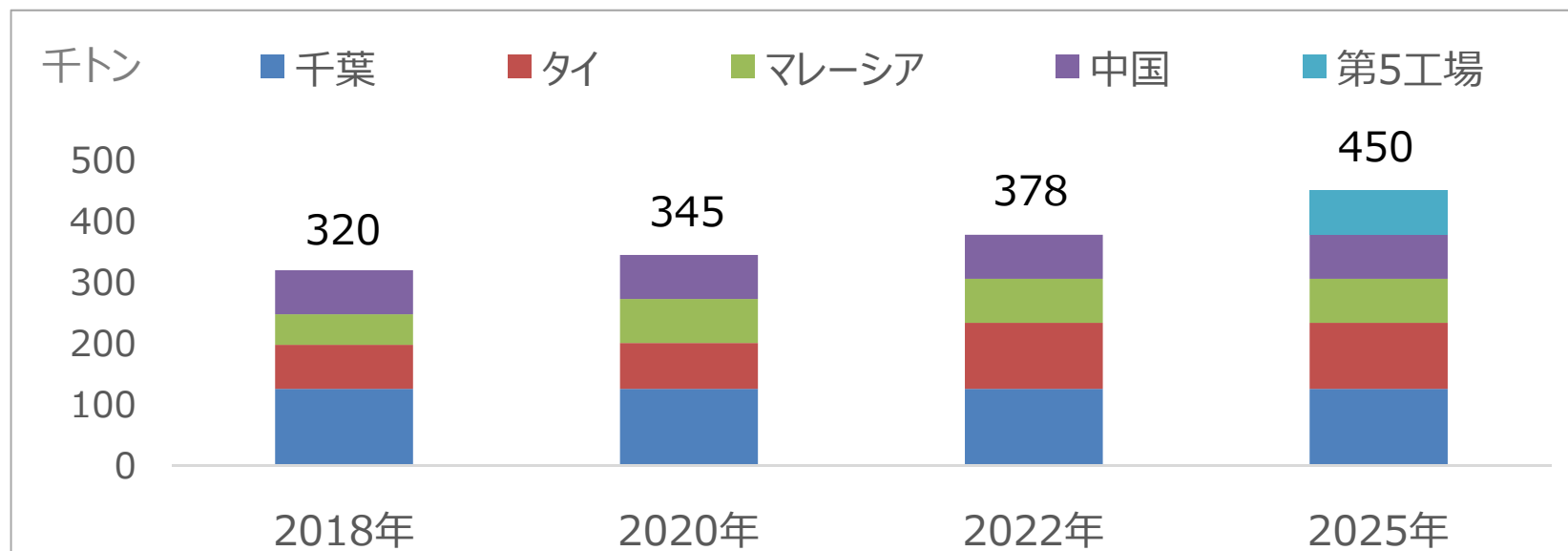
### 戦略

- 大手タイヤメーカーとの共同開発品の拡大
- 顧客の成長に応じた能力拡大

### 将来像

**顧客満足度世界一の合成ゴム事業**

—生産能力の拡大計画—





# ポリイミド



## ■ 電子機器の回路基板などに用いられる超耐熱性プラスチック

### 事業環境

- テレビなどの高精細化が進展し、回路基板フィルム需要が堅調
- 有機ELディスプレイなどの高級スマートフォン市場が中国で本格化

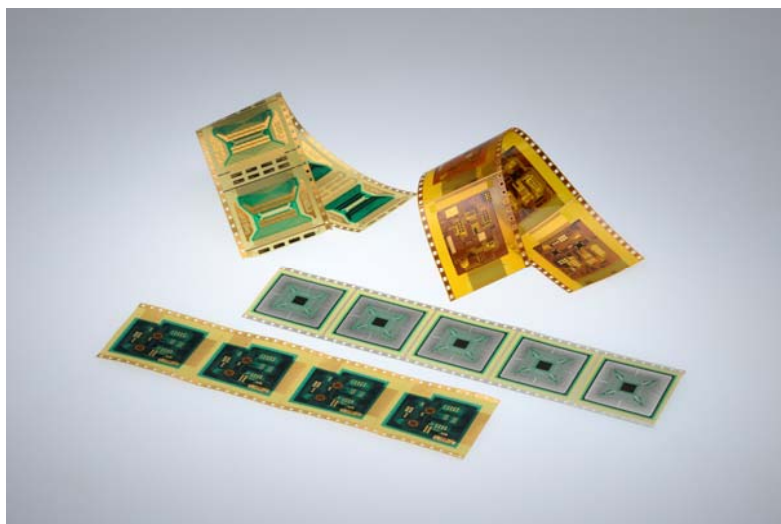
### 戦略

- スマートフォン向けの新製品を拡販
- 生産能力増強とコストダウンの推進

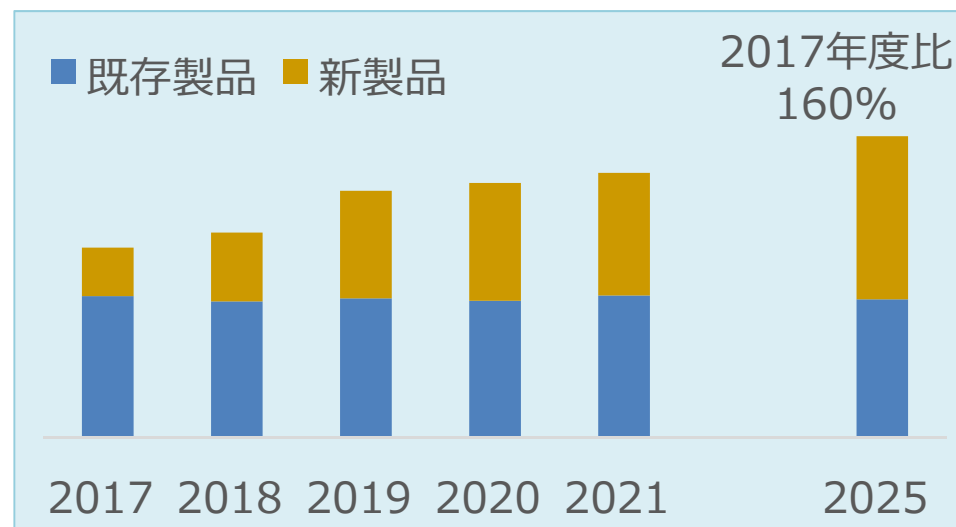
### 将来像

**着実に利益を生む  
事業構造を確立**

—ポリイミドの回路用途例—



—売上高推移—





# リチウムイオン電池材料（セパレータ）



■ リチウムイオン電池の正極と負極を隔てる絶縁膜。安全性や出力特性に強み

## 事業環境

- 電気自動車やハイブリッド自動車に使われるリチウムイオン電池向けで需要が伸長

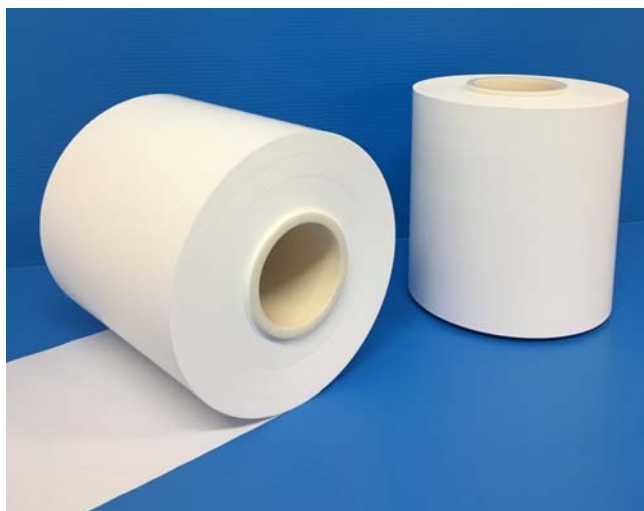
## 戦略

- 生産性向上と能力拡大による競争力の強化

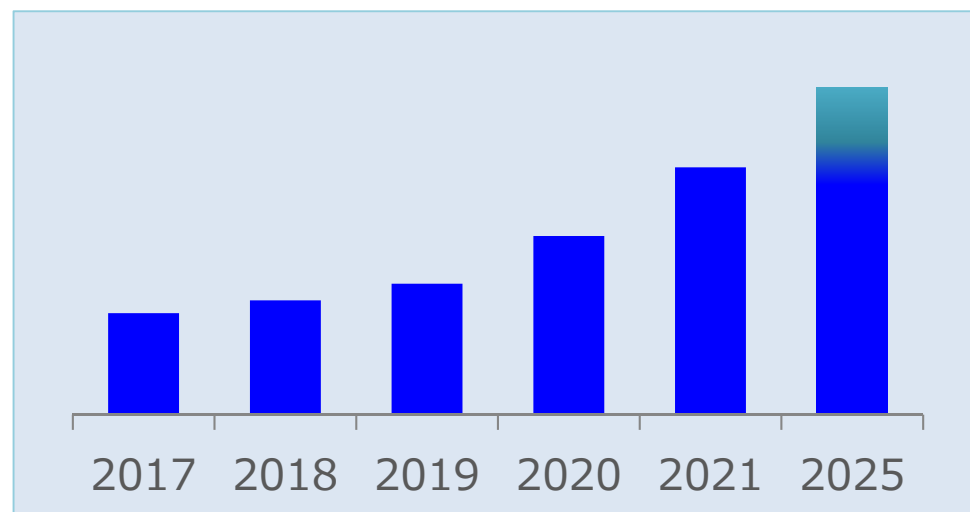
## 将来像

車載用途（台数ベース）でNo.1を堅持

—セパレータ—



—売上高推移—





事業  
環境

## —セメント国内需要—



セメント国内需要は  
徐々に減少する見通し

戦略/  
将来像

## 「社会インフラにおいて価値あるモノを提供し続ける」

### 1. 事業の強化と拡大

- セメント・生コン事業 : 省エネ・省コスト化、安定出荷体制の構築
- バイオマス、リサイクル事業 : 成長を加速

### 2. グループシナジーの追求

- 数十社あるグループ会社との連携を強化



バイオマス燃料



## 数値計画

(単位：億円)

項目	'18年度 実績①	'19年度 計画		'20年度 計画	'21年度 計画②	差異 ②－①
			1Q			
売上高	7,301	7,600	1,650	7,400	7,700	399
営業利益	445	470	73	490	550	105
経常利益	478	470	77	510	580	102
親会社株主に帰属する 当期純利益	324	310	45	320	350	26

✓ 2021年度 前提条件 (環境要因)

為替 105円/ドル

ナフサ (CIF) 640ドル/t

豪州炭 (CIF) 125ドル/t



## セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

		'18年度 実績①	'19年度 計画		'20年度 計画	'21年度 計画②	差異 ②-①
				1Q			
売上高	化学	3,242	3,450	745	3,300	3,500	258
	建設資材	3,210	3,300	754	3,250	3,300	90
	機械	972	1,000	188	1,000	1,050	78
	その他	49	50	11	50	50	1
	調整額※	△173	△200	△49	△200	△200	△27
	計	7,301	7,600	1,650	7,400	7,700	399
営業利益	化学	246	265	46	270	320	74
	建設資材	144	150	23	160	165	21
	機械	54	60	4	65	70	16
	その他	8	7	1	5	5	△3
	調整額※	△7	△12	△2	△10	△10	△3
	計	445	470	73	490	550	105

✓ 2021年度 前提条件 (環境要因)

為替 105円/ドル

ナフサ (CIF) 640ドル/t

豪州炭 (CIF) 125ドル/t



**V**

## 株主還元の考え方

---

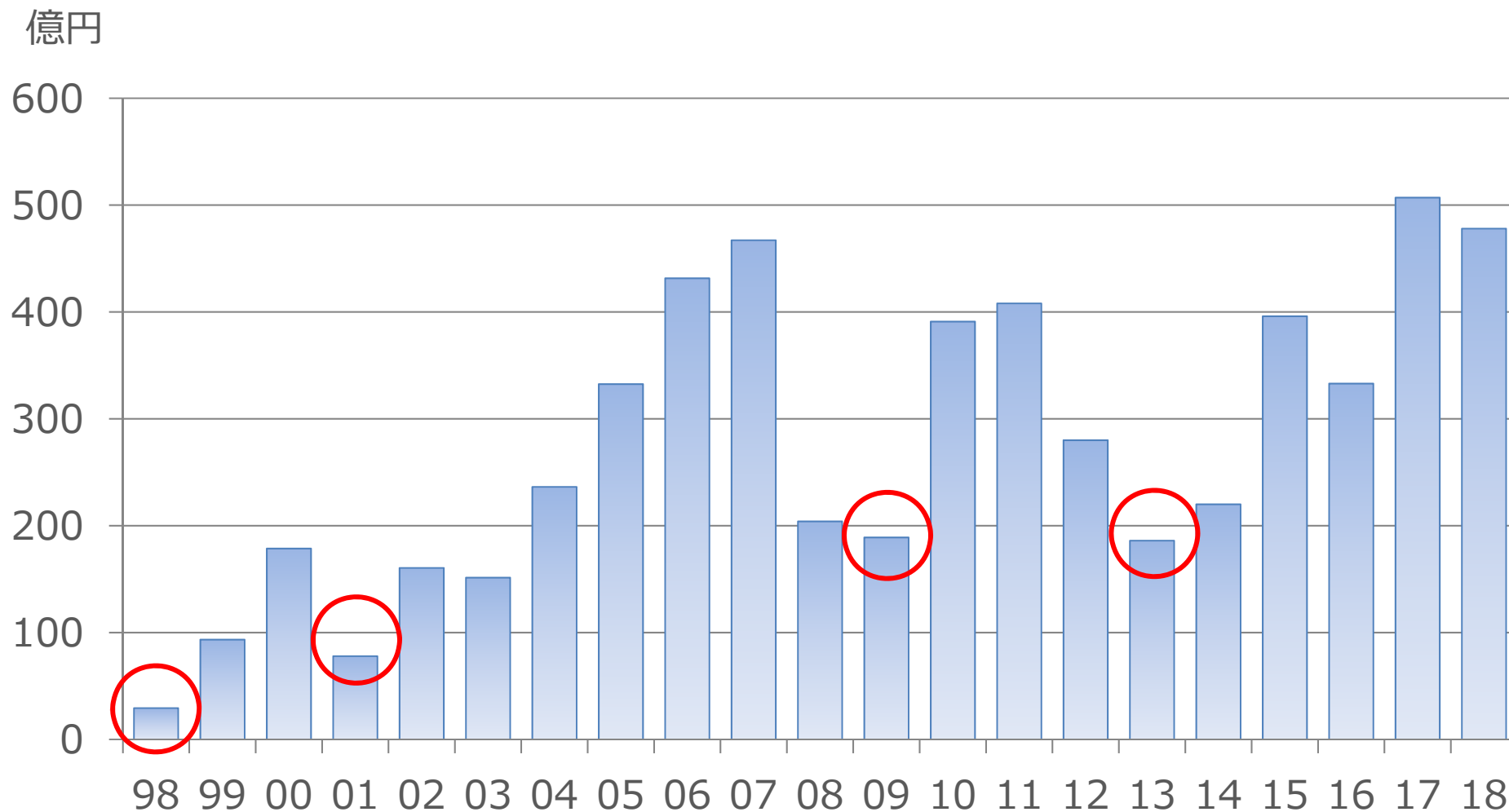




## 収益力の推移

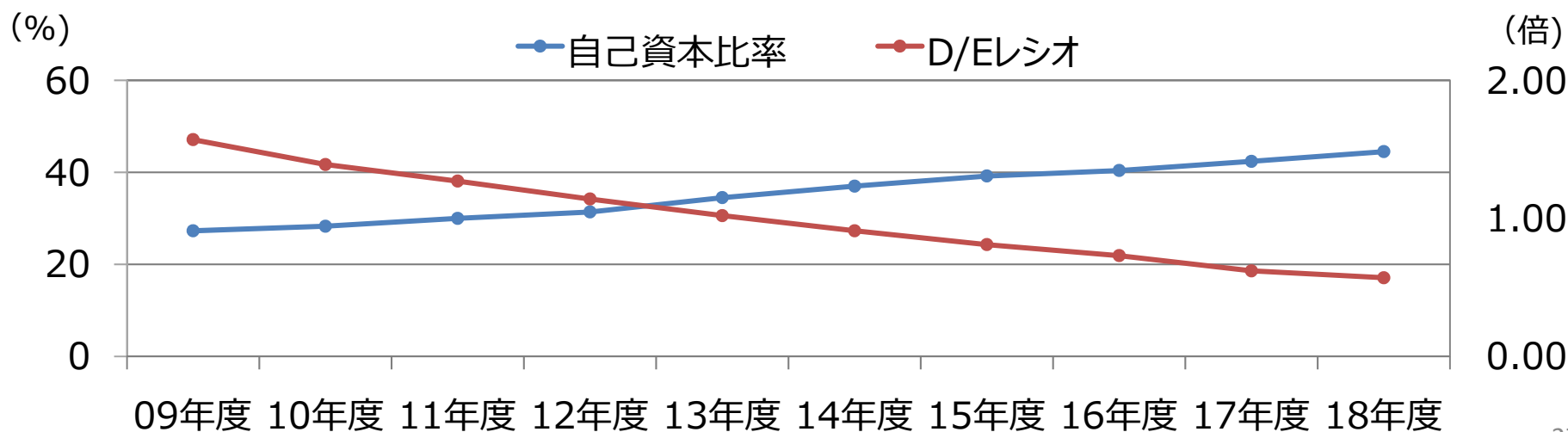
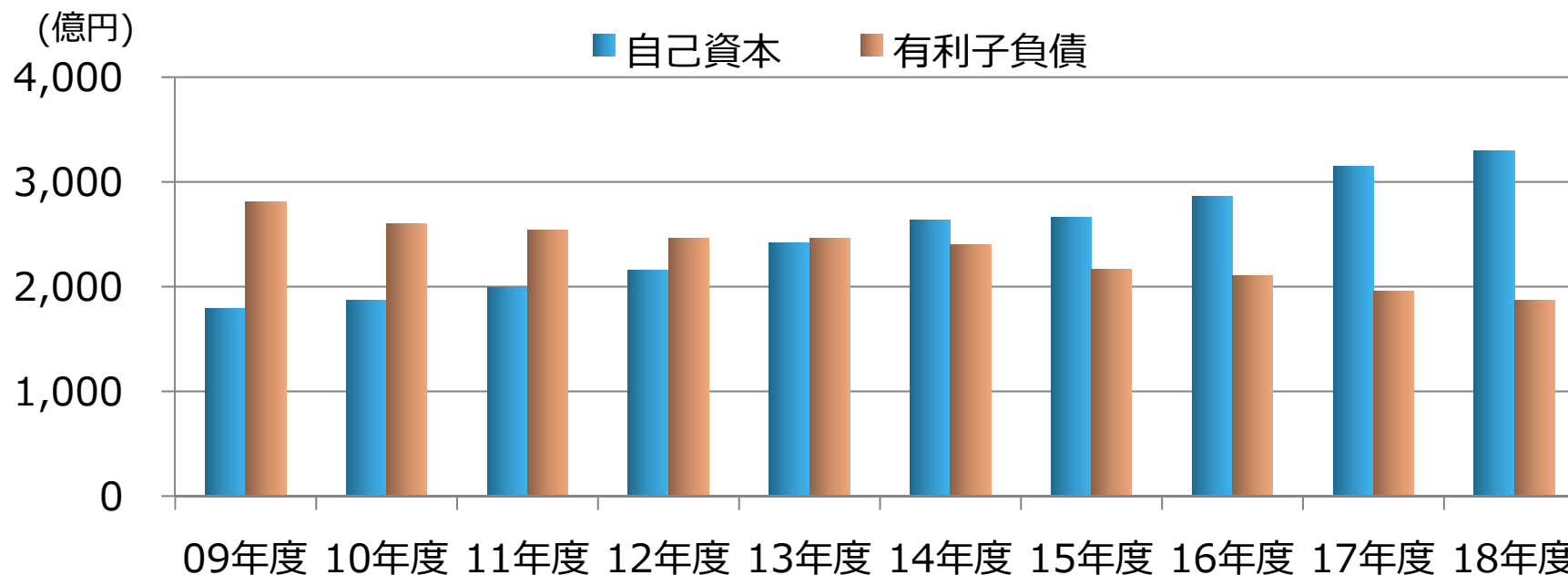
UBE

■ 景気後退局面での連結経常利益の谷は着実に切り上がっている





# 財務体質の推移





## 株主還元

# UBE

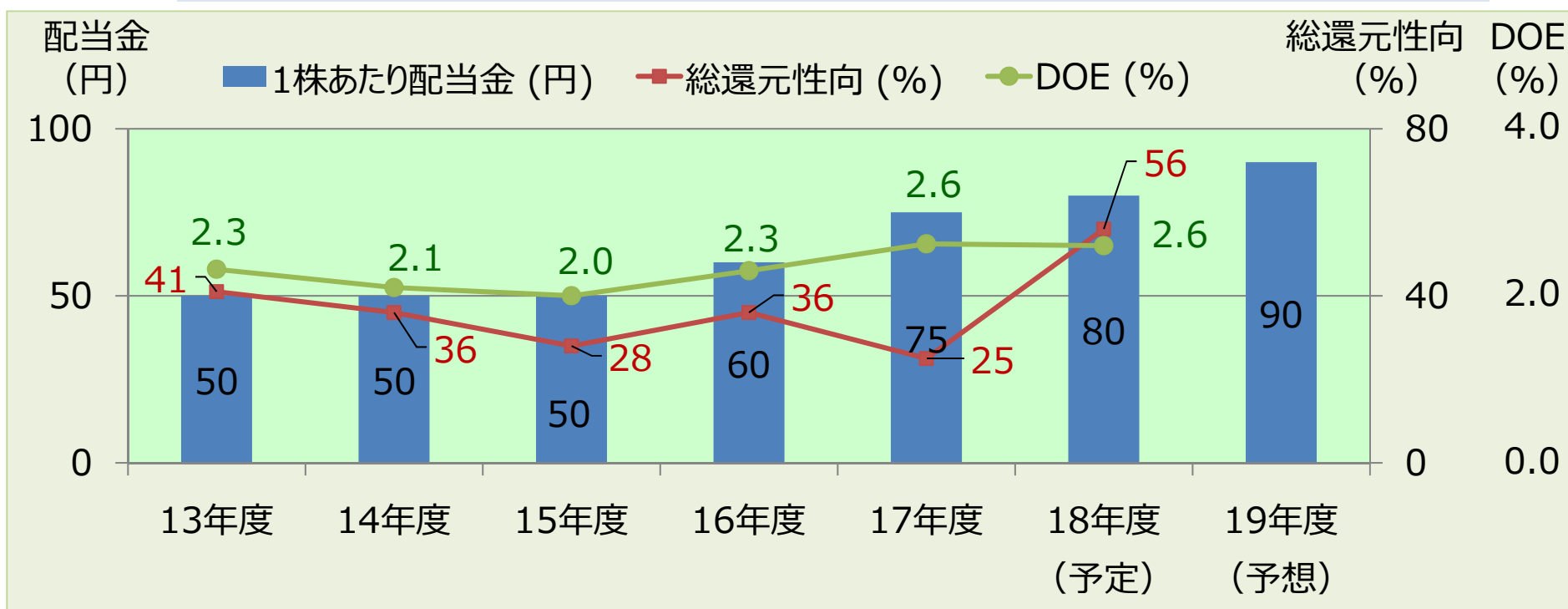
- DOE（株主資本配当率）と連結総還元性向（自己株式取得を含む）を重視
- 自己資本及びキャッシュフローの状況に応じ成長投資も積極的に行い、将来の株主還元をさらに充実



**DOE（株主資本配当率）**  
**連結総還元性向**

**2.5%以上**

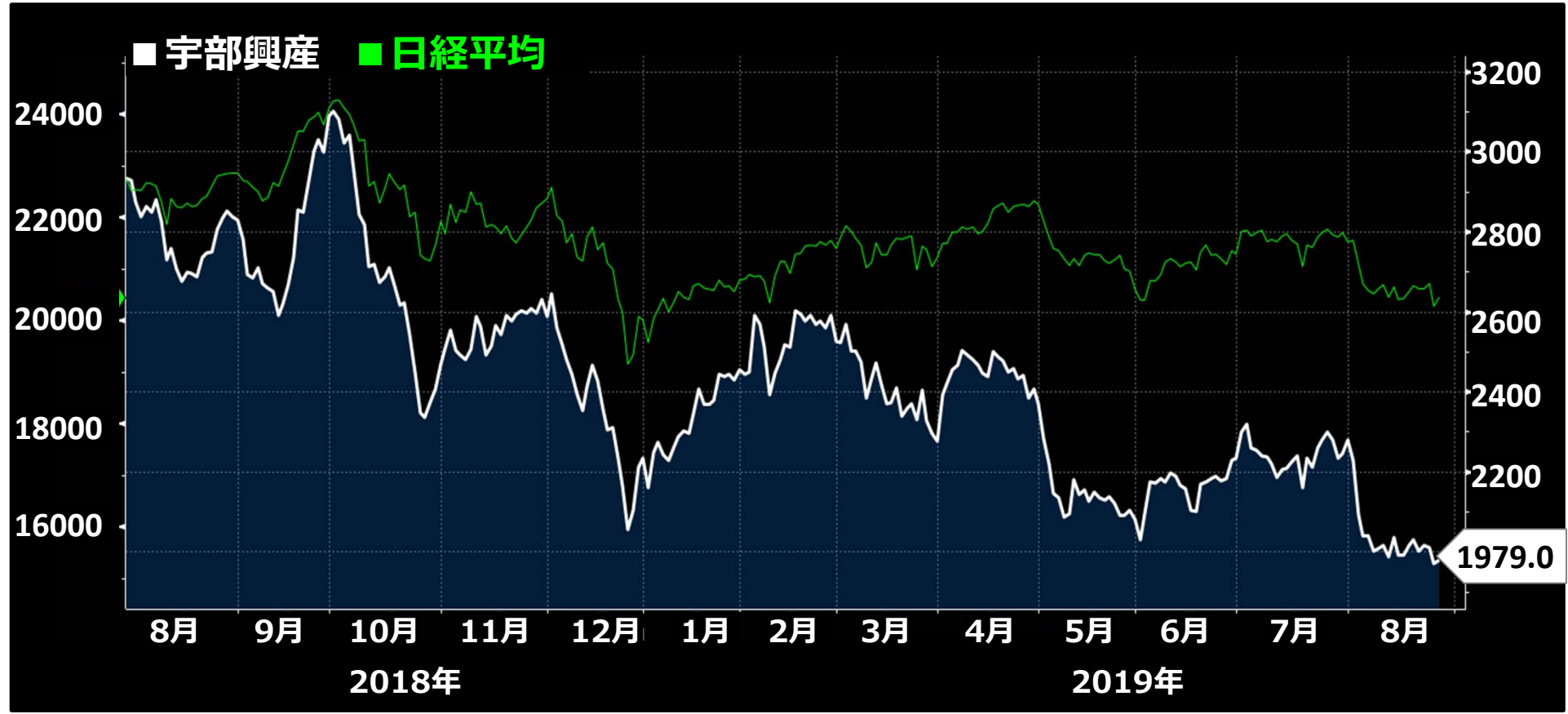
**30%以上（3ヶ年平均）**



(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。2016年度以前の1株当たり配当金は、株式併合後の基準で換算したものです。

# ▶ 当社株価の推移 (2018年8月~2019年8月) **UBE**

出展 : Bloomberg



※2019年8月27日現在

# UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合があります。

そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。ただし、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく複製または転用などを行うことはできません。